

政府を正面から追及 日本共産党 提案示す

昨年12月の臨時国会。「安倍・菅政権継承」ばかりか大軍拡や改憲姿勢など岸田政権の新しい危険が浮き彫り。共産党は危険性を追及するとともに抜本的転換を迫りました。

データ改ざん アベノミクスを粉飾?



代表質問する志位氏=12月9日

この間の二つの大問題。一つは、「建設工事受注動態統計」のデータが国交省によって、第二次安倍政権時代の2013年から8年間にわたって改ざんされていたこと。志位和夫委員長は「アベノミクス粉飾の疑惑だ」と指摘しました。

森友問題 卑劣な幕引き

二つは「森友問題」で自死した赤木俊夫さんの妻・雅子さんが起こした真相解明の訴訟で、国が「認め」し、幕引きを図ったこと。小池晃書記局長は「裁判打ち切りは真摯に向き合うやり方か」と追及、「雅子さんに会って謝罪、説明を」と求めましたが、首相は面会を拒否。

岸田政権の新たな危険浮き彫り

敵基地攻撃能力

全面戦争そのもの

「敵基地攻撃」能力の保有—岸田首相が歴代首相として初めて所信表明演説で「検討」を明言しました。「ミサイルを一発撃つという程度の話ではない」。小池書記局長は参院予算委員会で追及しました。

答弁した岸信夫防衛相は、「まず防空用のレーダーや対空ミサイルを攻撃して無力化し、移動ミサイル発射機、地下のミサイ

ル基地を破壊し、さらなる攻撃を行う”などと答弁しました。小池氏は「他国の領域に入り、ミサイル基地をしらみつぶしに攻撃し、焼け野原にしようという全面戦争だ」と指摘。「安保法制に続く憲法の平和主義、立憲主義の破壊は断じて許さない」と厳しく批判しました。



質問する小池氏=12月17日、参院予算委



長距離巡航ミサイルを搭載する最新鋭ステルス戦闘機 F35A (航空自衛隊ホームページより)

歴代政権は「平生から他国を攻撃するような、攻撃的な脅威を与えるような兵器を持っているということは、憲法の趣旨とするところではない」(1959年3月 伊能繁次郎防衛庁長官=当時)としてきました。

選択的夫婦別姓 先送りせず採択を

選択的夫婦別姓の実現、性暴力の根絶、男女賃金格差の是正—さまざまな課題で「ジェンダー平等の実現」を求めました。志位氏は、「夫婦別姓反対は自民党衆院議員の28% (候補者アンケート) に過ぎない。先送りせず直ちに民法改正案を採択しよう」と求めました。

気候危機 石炭火発新增設は矛盾

昨年11月のCOP26は、グラスゴの19%を石炭火力に頼り、9つも新一合意で世界の気温上昇を1.5度に増設を進めることは1.5度以内と本制的に矛盾する」と迫りましたが、岸田首相はまともに答えませんでした。